1．自己評価及び外部評価結果

作成日　平成22年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７０１０３７２３
法人名	医療法人社団　青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町４５５１番６ （電　話）087－840－1088

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２２年２月２４日	評価決定日	平成２２年４月６日

【情報提供票より】（22年1月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 15 日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	18人	常勤　10 人，非常勤　8 人，常勤換算　17．4 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1階建ての　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	34,650　円	その他の経費（月額）	4、800+実費　円
敷　金	有（　円）	○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1，400　円		

（4）利用者の概要（2010/1/7現在

利用者人数	18 名	男性	13 名	女性	5 名
要介護1	1	名	要介護2	3	名
要介護3	3	名	要介護4	8	名
要介護5	3	名	要支援2	0	名
年齢　平均	83.8 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ミタニ藤田病院、きくしま歯科医院

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの状態を把握して、その方に即した対応・支援をしている。
職員・入居者が家庭的な関係を保ち、一人ひとりに即した対応・支援をし、
常に意欲を引き出せる介護・支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は素晴らしい自然環境にある一面、公共交通機関がなく、いりこんだ所にある。そこで独自の「あいさつ」から始まる交流で、地域の中に溶け込んだ事業所にしたいと取り組んでいる。職員一人ひとりが入居者を家族と思い接しており、非常に落ち着いた雰囲気を感じる。管理者と職員がよく連携をとり日々努力をされている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の付く場所に理念を掲示しており、日々生活の中で理念に基づいた介護の実践を行っている。	グループ事業所全体の理念「自分らしく・楽しく・ゆっくりと」を掲げ取り組んでいる。更に昨年第六若葉荘独自の理念として「あいさつ」地域交流をあげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃・お祭り・敬老会・子供達のマラソン大会の応援など行事に積極的に参加し、事業所にはボランティアによる茶会や大正琴・銭太鼓など訪問を受け交流に努めている。	地域の清掃、祭りなど積極的に参加し、また、近所の有志の方がボランティアとして、大正琴・銭太鼓など来てくれている。	今後「認知症に関する勉強会」「家族介護者教室」等を企画し、地域の多くの人たちとの交流を深めるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の時に委員の方に入居者の状況を説明し、支援方法についても話し合い、助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の地域委員の方々から地域の情報や市の方からもその時期の情報を頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では主に事業所からの報告、関係機関からの通達などが多い。積極的な意見はあまり出されていない。	運営推進会議のメンバーについて、意見を得ながら広げていくことも必要かと思われる。地区の自治会長、婦人会等諸団体との連携をもつことなど検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの会議に参加させてもらい、情報の交換をしケアサービスの取り組みを積極的に築くようにしている。	地域包括支援センター主催の会議(特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護・グループホーム)に参加し交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時開放しているが、見守りが手薄になる時間帯に帰宅願望が強く出る方が重なった場合は内側の入り口を施錠するようにしている。	玄関は開放している。内側の各ユニットへの入り口については必要時施錠することもある。身体拘束(安全ベルト使用)については家族と話し合い了解を得て必要時やむを得ず実施することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員とは常に話し合い、監視も十分に行え注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用すべき入居者はいないが、必要性が出た場合は学ぶ機会を持ち支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また、はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、不安や疑問点を尋ねて理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日々の生活の中で話を聞き、家族には面会時に意見や要望を聞くようにしており、反映するよう心がけている。	面会時に家族とよく話し合っており、歯ぎしりのひどい人への対応や、希望時家族にドライブに連れて行ってもらうなど個別の対応につなげるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の処遇については常時、管理者と職員が話し合い、より良い意見を聞き対応に当たっている。	介護の方法・身体の状況など入居者の処遇について職員間で話し合いをし、共有して実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員が働きやすい、やりがいがある、各自向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修の参加を呼びかけ、外部研修への参加も案内などをその都度見て参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センター開催の会議に出席し、同業者との交流や勉強の機会をもてるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの話の中で、不安や要望等を聞き安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、困っていることを聞き不安・要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、まず必要としている支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を保ち、事業所内で出来ることは協力・支え合って良い関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に状態等を報告し、支援策をお互いに話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、外出や外泊されることによって近隣の方や馴染みの方との関係が保たれている。	県外にいる家族が帰った時の外出、外泊や、入院中の妻との面会など、特に個別の対応に取り組んでいる。	家族の面会が少ないことについては、行事への参加を呼びかけるなど、家族同士の交流の機会も持てるような取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格・状態・相性等、色々鑑みて席を決めることで入居者同士が助け合っている姿が見受けられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態が悪化し入院をされたなど、必要に応じ家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが難しい方には支援している中で良い表情で喜ばれている状態の時が意向ではないかと把握に努めている。	希望、意向を表出できない人には表情をよく観察し判断している。また、家族からの情報、生活歴を入手し、行動の把握が出来る様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自由に過ごす(書写・テレビ・臥床・散歩・買物等)事が出来るよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化する介護について、職員・家族等関係者と相談・連絡・話し合い現状に即している。	ミーテイングにより職員全員でモニタリングをし、介護計画を作成している。中止、追加など具体的に状況を判断しながら、現状に即したものになるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、申し送りノートにより情報を共有し意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズに対して、関係者でよく話し合いながら支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により、催事・行事に参加できるよう常に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携ができており、適切な医療が受けられている。	本人、家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続している。協力病院を利用する人が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常、入居者に関する情報や気づき等は些細な事でも疑問点があれば、すぐ病院に連絡し相談・受診が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合でも事業所で出来る支援については、家族・病院関係者等に伝え協力・援助している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化など状態に変化が見られるようになった際には、家族に連絡し相談しながら出来るだけの支援が行えるように努めている。	重度化、終末期の対応については、本人、家族の意見、医師、管理者を交えて十分話し合って対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等、対応はできている。常に対応の仕方は職員同士よく話し合い訓練等の場を設け努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を職員全員が交代しながら定期的に行っている。	年2回訓練が実施されている。1回は消防署の指導を受け、1回は職員で実施している。	訓練内容について検討し、職員の意見をもとに対応方法についても更なる研鑽を期待したい。災害時の地域住民の協力の内容を具体化し、実践可能なものとなるように検討を重ねて欲しい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬や個々の人柄などを尊重し、言葉遣い等気をつけるよう常に職員に声掛けをしている。	一人ひとりを大切に、人生の先輩として尊重し言葉掛けなど気をつけている。おむつ交換時はドアを閉めたり、特浴の時は必ずタオルを掛けるなどプライバシーを守る取り組みを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに話しかけ、また、話を聞き表現や自己決定ができる雰囲気にもっていくなど支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事等事業所側の決まりで過ごしているが、普通入浴など時間に余裕を持ち出来るだけ本人の希望に添うよう支援し、日中は個々のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意志表示ができる方は本人に聞きながら服装を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共同生活の為、個々の好みによる支援は出来かねるが、下準備や片付けなど手伝ってもらっている。(お膳拭き・お膳の収納・テーブルふきなど)	男性の入居者が多く、調理の手伝い、配膳など積極的にはされていない。これは生活歴からやむを得ないと考えられる。穏やかな雰囲気の中で食事をされている。家庭的をモットーに常に暖かいものを出すように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスなどは栄養士により考えられており、個々に応じた食材の大きさなど考慮している。水分量は1日をトータル把握して記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けして促し、自立が困難な方には職員が介助している。(1日3回口腔ケア介助している。夜間はケア後保管している。)		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位不可能な方はオムツ対応とし、自立の方も声掛けしている。排泄チェック表に基づき排泄パターンを把握している。	排泄チエック表に基づき対応している。トイレ誘導については、個別の習慣(部屋から呼ぶ、トイレはどこと尋ねる、部屋のドアを少し開けるなどサインの特徴)を把握し対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、入居者の殆どの方が便秘気味な為、排泄チェック表の把握により内服薬・飲み物・食事等で工夫して排便がスムーズになるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、入居者の殆どの方が特浴介助の為、一人ひとりの希望に合わせてあげられていない。(特浴にかかる職員数が3～4人従事する為)	特浴の人が5～6人おり、対応に職員が3～4人必要となるため希望に添えないこともあるが、入居者が納得したうえでの対応ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通常は昼食後お昼寝の時間を取り、外出等をした場合は適宜休息を確保している。夜の入眠時間は個々の希望に添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には薬の目的を話しており、服薬に関しては確認ないし一部介助し、症状の変化は1日1回の受診で確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事(書写や絵)に関して材料などの確保、嗜好品も個々に好まれる飲み物(コーヒーなど)やお菓子を用意し、レクリエーションにより気分転換されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	珍しい物、季節ごとに変わる風景等、戸外に出向いて肌で感じてもらったり、入居者の方に「見たい所・行きたい所」を聞き出来るだけ希望に添えるよう支援している。今年は塩江の足湯に行き楽しんでおられました。	うどんを食べに行きたい、花見に出かけたいなど、出来るだけ本人の希望に対応するように努めている。週1回レクリエーションで外出し、買い物、ドライブ、散歩など外へ出る機会を出来るだけ多くするように取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人がお金を持つ事はしていない。事務所でお預かりしている。一緒に買い物に行き個々が買い物(支払いなど)をできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望(電話など)があれば支援している。年賀状は絵や文章など書いてもらい家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・玄関等に季節の花や飾り(置物)をし、季節を感じてもらい窓から見える景色の移り変わりなどを楽しんでいただいている。	共同の空間にはボランティアの人たちの作品、入居者の書いた書などが飾られている。窓から見える外の景色が素晴らしく、癒される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの座る場所は、個々がどの場所に座ってもかまわないようにその都度対応できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れた物(毛布や枕など)や飾り・置物(鉢など)を持ってきていただき居心地よく過ごされている。	枕、毛布など使い慣れたものを持参、ベッドの位置も本人の置きたい所に置くなど個別性が尊重された対応がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入口の扉は各居室同じな為、分かりやすいように大きな目印を付けるなど自分の部屋が分かり行けるよう工夫している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、事業所理念を作成したが、地域や入居者のニーズ・事業所の状況の変化によって、現状に合った理念に作り変えていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を民生委員の方に聞き、参加できる行事には出来るだけ参加したいが、現状として参加出来ていない。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の時に地域の方にもっと認知症の事を知ってもらいたく、地区の方々に理解や接し方についての勉強会をしたいとお願いしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーから質問・意見・要望などを受け、その経過・報告をし意見をもらうようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	考え方や運営・サービスについて試行錯誤しながら、支援など必要な事が多いため、担当者によく知ってもらい共有している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組みたいが、その時の必要の際には家族の許可をもらっている。玄関は常時開放しているが、帰宅願望が重なる日が続く場合のみ内側のドアを閉めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングなど実施し理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。

認知症高齢者グループホーム第六若葉荘(②ユニット)

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースが今現在ない為、職員は理解していない。その為必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。学ぶ機会を持ち支援できるよう努めたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方・取り組み・退居を含めた事業所の対応、可能な範囲について説明を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。要望などは職員会議で話し合い反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の要望や意見を聞くよう心がけているが、不満・苦情は言い難い部分も多いので把握しきれていない。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境、仕事の不安・人間関係・ストレスの相談に乗って各自が向上心を持って働けるよう環境条件の整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修報告書を全職員が閲覧出来るようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センター開催の会議に出席し、同業者との交流・勉強の機会を持った取り組みをしている。

認知症高齢者グループホーム第六若葉荘(②ユニット)

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会い本人の求めている事や不安を理解し、本人の状況を把握し信頼関係を作るようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり話を聞くようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対し出来ることは直ぐに実行し、本人や家族と話し合い対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援される側、支援する側という意識を持たず、お互い協力しながら和やかな生活が送れるよう声掛けをしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子・職員の思いを訪問時に伝え、本人を一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会う機会がなく、関係継続することは難しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間をレクリエーションを利用して注意深く見守るようにしている。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方にも遊びに行ったり行事に参加したり、家族からの相談にもその都度対応している。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声掛けし、把握に努めている。困難な場合は家族からの情報を得るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にどんな生活をされていたのかを聴いたりして自分らしく暮らしていく事を支援している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを職員全員が把握に努めている。出来る事を発見していく事に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を聞き、職員全員でモニタリングを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等、日々の暮らしの様子や本人の言葉など記録に残している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて本人・家族・関係者で話し合いながら支援に取り組んでいる。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・消防・公民館など意見交換する機会を設けている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、入居前からのかかりつけの医院での医療を受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と気軽に相談できる関係が出来ている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と情報交換をしながら回復現状等、速やかな退院支援に結びつけている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向などを聞き支援方法を踏まえて、状態の変化があるごとに家族・医師を交えて話し合いを行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関に連絡を取り指示を仰いでいる。応急手当などミーティング時話し合いをし身につけている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・民生委員・地域の方たちに協力をお願いしている。

認知症高齢者グループホーム第六若葉荘(②ユニット)

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りやプライバシーを損なわない対応の努力をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせて声を掛け、職員側で決めた事を押しつけるような事はせず入居者が自分で決めるよう促している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応するようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や散髪など自己決定して頂いているが、難しい入居者には一緒に考えるなど支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳拭き・テーブル拭き・裏の畑で野菜の収穫など出来る事をして頂いている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	１日を通じての水分量・食事摂取量は毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。献立は栄養士が立てている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の状態に応じて介助を行っている。

認知症高齢者グループホーム第六若葉荘(②ユニット)

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チョック表を使用し、尿意のない方にもトイレ誘導し排泄を促したり、時間・習慣を職員全員で把握し声掛けを行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、水分補給・食事の工夫を個々に応じた対応をしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合った入浴はなかなか叶えてあげられないのが現状である。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、本人の生活リズムを乱さないよう夜間はゆっくり眠れるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が見て分かるようにしている。服薬時も名前を確認して手渡しをし服用出来ているか確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願い出来そうな事柄をお願いしたりして支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添っての外出支援はなかなか出来ないが、月に1～2回の買い物やドライブ・散歩に出かけ季節を感じてもらったりしている。

認知症高齢者グループホーム第六若葉荘(②ユニット)

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を持っている方もいて、自分で事業所内の自販機でジュースを購入したり、事務所で管理している方たちは買い物時に自分で購入できるよう支援している。また、職員が購入してくる時もある。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話しやすい雰囲気作りや、他の入居者に聞こえないよう場所の提供など支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ゆず湯・しょうぶ湯・もちつき・クリスマスなど五感・季節感を意識的に採り入れられる工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような場所をもう少し工夫して増やしていきたいと思う。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ってきて下さる写真や花を飾ったり、自分の過ごしやすい居室(寝やすいベッドの位置など)など工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「できること」「わかる事」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。混乱や行動の失敗があった場合、職員で話し合い本人の不安材料を取り除くよう工夫している。